

旭市新庁舎建設市民会議 会議録

日時：平成 29 年 11 月 14 日

午後 1：30～4：30

場所：本庁舎 3 階委員会室

出席者

(委員)

林英光委員（会長・議長）、名取康雄委員、林正一郎委員、平野忠作委員、高橋渉委員、加瀬浩委員、戸井穰委員、飯嶋直子委員、川上幸枝委員、遠藤依子委員、新行内正巳委員、向後充委員、小関友紀子委員 以上 13 名

欠席 3 名（埴政美委員（副会長）、高山和視委員、林修三委員）

(事務局等)

市長：明智忠直、総務課長：飯島茂、総務課副課長：伊藤義一、
総務課新庁舎建設班長：穴澤昭和、総務課新庁舎建設班：高木正博

受注事業者：(株)横河建築設計事務所（中島雅守、長浦雅人、新井敏裕、鈴木光洋）

：コクヨマーケティング(株)（森尾雅士、糸山嘉子）

【会議 開会】

(市長あいさつ)

このところ安定した天気にも恵まれていましたが、また今日は悪天候となり足元の悪い中皆様には大変お忙しいところお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

本年度 3 回目の新庁舎建設市民会議ということで、皆様方にお集まりいただきました。前回の市民会議においては、基本設計の検討項目ということで建築構造や、部署等配置計画についてご説明をさせていただきました。建築構造については、免震構造が望ましいという意見がある一方で、その建設コストがどの程度高額となるのか、委員の皆様からご質問をいただきました。本日はこの免震構造の建設コスト等について改めてご説明をさせていただきます。

また、新たな項目としてサイン計画、外装仕上げ、内装材料、概算事業費についてのご検討をお願いするものでございます。委員の皆様には大変ご多用な折、恐縮ではありますが、どうぞ忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

近年、県内においても耐震性のない既存庁舎の建て替え等を検討する自治体が多くなってまいりました。ここ 1、2 年で、建て替え済みが浦安市や習志野市などの 5 市、建て替

えを進めている自治体は、千葉市や袖ヶ浦市、旭市を含めて5市になっております。市民の安全・安心を確保すべく、防災拠点としての庁舎の建て替えを進めているのが現状であります。そういった意味も含めまして、新庁舎は新しい時代のまちづくりの拠点となるよう進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

(林会長あいさつ)

今日は今までと違って、今後の在り方の出発点になると思いますので、忌憚のないご意見をお願いします。前から申し上げていますように、日本一の庁舎にしたいという話があります。そのためにはどうしたらよいか、ぜひ意見をいただいて、それを設計に反映したいです。最近あちこち私も見てまいりますが、新しい動きというのはいろいろありまして、それら全て良いものは、みんな考え方が非常に良いということです。思想や設計、それを皆さんと共に考えて、設計に活かしていきたいと思います。

議 長：議題（1）について事務局の説明を求める。

事 務 局：建築構造（免震構造）についての説明。

議 長：中央部分だけはきちとした構造で、その下に免震構造、周りの部分がある程度は増築・改築ができる自由なスペースで、そのところには免震構造を設けないというのではなく、全体を免震にしている理由を説明して欲しい。

事 務 局：免震構造の建物と、耐震構造の建物を一体で造りますと、地震の時の揺れ方が違うので70cmほどの隙間を空けて建物を造らなければいけません。それを、床や屋根、外壁を塞ぐための動いても良いような金物の部材で建物を繋げていきますが、その金物の部材が非常に高価で、免震装置の減額よりも、その塞ぎの装置の方が非常に高い金額になってしまったので、かえって周りだけ耐震構造にすると、費用が高くなるという検証結果が得られました。それに加えて、建物の動きが違うため、将来的にその金物が悪さをして雨漏りの原因になるということも1つのリスクとして考えられるということと、来庁者が普段歩いている床の部分も、繋ぎの金物で塞いでいく構造になりますので、地震で大きく揺れるとその床がせり上がるような構造になります。例えば、市民等が避難して来た時に、余震で大きな地震が来て床がせり上がると、避難している人が危険にさらされてしまうため、費用面でも安全面でも全体を免震構造にした方が良いという判断をさせていただいております。

議 長：それで、免震の装置が増えたのですね。

事務局：補足をさせていただきます。新庁舎の免震の部分の工事費が５．５億円という報告がありました。では免震ではなく耐震であった場合には２億５千万円ほど基礎にかかるであろうと、免震と耐震の差額ということで３億円程はアップすることになるということです。冒頭市長からも挨拶がありましたように、市民の安全・安心を確保すべく、旭市の防災拠点というような中で、ご理解をいただきたいと思っています。

議長：建築構造に関する質疑及び意見を求める。

委員：今の説明で疑問のところが全部出てきていて、そのとおりだなと思いました。免震構造というのは、あまり面積が広くなく上に高いということで、要するに大きな長期振動やそういったものに対して良い面があるということなんですけれども、免震装置１４３基と５５基ということで概算の総指数が出たのですが、これのメンテナンスはどのくらいかかりますか。

事務局：５年に１回の定期点検が必要になりまして、それにかかる費用が約１００万から１５０万円ほどです。

委員：５５基全部ですか。

事務局：そうです。基本的には目視が原則なので、目視と一部大きな地震を受けた時に計測値を見るというようなことになります。

委員：免震ゴムも基本的には目視なのか。

事務局：そうです。

議長：他にありますか。特に無いようですので免震で進めていきます。次の災害対応設備について事務局の説明を求める。

事務局：災害対応設備についての説明。

議長：災害対応設備に関する質疑及び意見を求める。

委員：非常用発電機はディーゼルエンジンだと思いますが、出力とオイルタンクの容量はどのくらいか。

事務局：出力に関しましては、320KWの出力を3日間稼働させる場合、オイルタンクの容量は約5,000リットルという試算になります。

委員：燃料は、地下タンクから供給する仕組みか。

事務局：駐車場の車が普段止まっていない車路の下に、コンクリートの躯体を埋めて、その中にオイル用タンクを入れることで耐震性を持たせ、そこから発電機にオイルを供給するシステムになります。

委員：発電機は、通常使っていないと、いざという時に使えない状態になっていることが多く、震災の時に持っていたても使えなかった方が多くいました。定期的に発電機はメンテナンスが必要であるという点と、大きな災害がきて電気が長く復旧しなかった場合、3日分で足りるのか。

事務局：1つ目のご質問で、メンテナンスを行い時々稼働させなければならないということですが、法定点検を半年に1回必ず行います。そこで運転して確認をしなければいけないという決まりがあります。それに加えて、施設管理者側で、1ヶ月に1回、5分程度の運転を行い維持管理を行います。2つ目の質問ですが、タンク容量は3日分で足りるのかについてですが、旭市の地域防災計画の中で3日とあり、東日本大震災の時にも電力は比較的早く復旧したという点もあります。また、災害時に3日間連続運転した場合には、オイルを補給する形態となっております。

事務局：補足をさせていただきます。非常用発電は、旭市役所本庁舎にも現在あります。それと海上支所にもコンピュータのサーバーがあるので、そちらにも設置しております。説明にもありましたように法定点検ということで、旭市では関東電気保安協会に依頼しており、法定の義務ですから点検の方はしっかり行っていきたいと思っております。

委員：非常用発電の容量は、一般の行政でも同程度なので容量としては良いと思います。そのほか、太陽光発電についてですがパネルはどこに設置するのか。パネルを置く場所によっては外観に影響する。

事務局：これは全体の外観のデザインとも絡む話なので、これからも引き続き検討していきたいと考えていますが、現在のところ2階の屋上の広い部分にパネルを設置するのはどうなのかと考えております。

委員：2回線受電方式を1回線にすることについて、2系統ではなく2回線ですから1つの電信柱の中に、線が2本入っているだけなんです。電信柱が倒れてしまうと全部ダメになってしまうんです。ただ、1本の線が切れた時に、もう1本の線で送りましょうというのがこの2回線受電方式ですが、上水道関係の施設は全部2回線受電になっているんですが、新庁舎の場合には、非常用発電機、それから太陽光発電などがありますので、無しで良いかなと思います。

議長：太陽光発電については、いかがでしょうか。

委員：太陽光発電は常用ですよ。

事務局：常用です。実際は、太陽光発電で発電した電気をキュービクルで混ぜて全体に使いますので、どこで使っているという特定ができるようなものではないですが、それだけの出力は発電できるということです。

委員：蓄電池が検討項目の中にありますが、大体5時間分を余剰分として溜めこんでフルに使おうという形なのか、逆に充電をすることで契約電力を減らすような形で動いていく常用なのか、いずれにしても常用で良いかなと思います。

議長：太陽光発電については設置する事でよい。蓄電設備については、いかがでしょうか。必要かどうか難しいところもありますが。

委員：事務局はどう考えていますかお聞きします。

事務局：費用対効果のあまり良くない設備なもので、13年後に更新をしようと思ったら2,500万円ほど投資しなくてはいけないということもありますので、基本的には非常用発電があれば不要な設備ではないかと考えさせていただいております。

委員：私も同じ考えです。

議長：蓄電設備については設置しない方向で進めます。2回線受電方式については、1回線受電方式に変更する事に意見はありますか。無いようですので、このような方向で進めます。
次のサイン計画について事務局の説明を求める。

事務局：サイン計画についての説明。

議長：最近空港とか都市の中では、だいたい黒地に白とか、白地に黒とか非常にはっきりとした色を使うようにしています。全体は文化の柱のことも考えて、やさしい感じにしてありますけれども、はっきりと黒地に白、白地に黒で、その分建物の中を木にするとか、はっきりとした方が良いのではないかと思います。先日、宮城県白石市の病院に行きましたが、病院ということで血の色の赤で全部サインが統一されており、それが逆に人に分かりやすい。旭市の場合では白・黒・グレーでピシッとしたもので良いのではないか。その分、建物の中で雰囲気を出していく感じの検討をして、必ずしも白・黒・グレーでなくても良いのですが、単純にしておいた方が良い。
サイン計画に関する質疑及び意見を求める。

委員：外構サインですが、路面のサインは考えていますか。例えば、道路上の左折の矢印など最小限にすると、すんなり行けるのかなと感じます。もう1つ、正面玄関のロータリーがありますが、この入口は外構サインで誘導すると思いますが、左からぐるっと回るんでしょうけど、最近お年寄りの事故とかあるので気を付けて欲しい。それから、庇の下で待っていて、そこで車などに乗れるようにしてもらいたい。くれぐれも、車が流れを間違えないように考えてもらいたい。

議長：建物自身がサインです。入ってきた時に人を向かい入れるような形とか、動線についても同じです。床面も道路面も一体とした考え方で進めてほしい。

委員：外構サインを拝見して形は納得なのですが、なぜ旭市で木質系なのか。名前もサンブスギですし、山武市なら解るのですが。それから、案内サインの方でスマホでかざしてバーコードでというのがありますが、貼られているバーコードを読み取るとスマホで案内してくれるアプリなども、これから10年先を見越すと出てくると思いますので、そのようなものも検討して欲しい。また、高齢者の方は目線が低いので、床のサインなど最小限で良いとは思いますが検討してほしい。

議長：スマホというのは進化するもので、それから視覚だけではなく音声というものもありますから、建物と一体的に検討することで、市民にとってサービスの良い庁舎、サインにしてもらいたいと思います。他に意見が無いようでしたら、次の外装仕上げについて事務局の説明を求める。

事 務 局：外装仕上げについての説明。

議 長：外装仕上げに関する質疑及び意見を求める。

委 員：ガラスを多用しているということで、清掃はどう考えていますか。だいぶ大きいと思うんですけど、ガラスはすごく良いと思うのですが、実際どう考えているのか。清掃の度に足場を組むのは難しいと思いますし、市民の方がいる前で水を撒く訳にもいけないと思うので、設計の中で光触媒コーティングなど考えていけないといけないと思います。

事 務 局：基本的には、建物外周にメンテナンス用のバルコニーを設ける計画です。右下のイメージ写真を見ていただくと白い横ラインが入っていますが、これがメンテナンスバルコニーとして機能し、デザインとしても活かしていきたいと考えております。なお、2階部分などで届かない部分は、光触媒コーティングをうまく取り入れるなど、今後検討したいと考えております。

議 長：最近いろんな建築ができています。両国に葛飾北斎の美術館ができました。アルミ素材ですが、すごく良いです。旭市も風土に合った懐かしい感じの庁舎にしていきたいと思います。かなり大胆にしていっても良いかなと思います。またそれも安くできれば良いでしょう。そういった考え方が入ってくると新しい庁舎としても注目を浴びると思います。新庁舎の5階の展望室の形が変わってきましたけど、目的は自分たちの故郷を見ることができるといことと、旭市だなという今までにないイメージまで踏み込んだもので良いのではないかと思います。最近、東庄町の役場を見てきましたが、良いなと思いました。もっとインパクトがあるような、何かそういうものが入ってくると旭らしさが出ると思います。

事 務 局：イメージパースとして出していますが、シミュレーションをいろいろ加えながら、模型も作りつつあって、そういうもので旭市ならではの形っていうのはどうなのだろうと議論を始めているところで、林会長ともお話をさせていただきながら、デザインについては引き続き考えていきます。それと、日本一の庁舎を目指すというところですが、今回は、非常に庁舎としては珍しい外回りの回廊式プランで、今回の敷地ならではのです。この場所ならではの庁舎づくりを、空間、機能も含めて引き続き考えていきたいと思います。

市 長：2階の屋上部分に太陽光パネルを置くと、このスペースの3分の1くらいを使

い、イメージ的に、景観的にもデザインの的にも違う感じになってしまうのではないかと思う。

事務局：太陽光パネルがあると外観イメージが変わってしまうかもしれません。計画の20KWであれば2階の屋上面積の3分の1くらいのスペースになってくるので、最上部の屋根の形態などをシンボルに見せて、なおかつ太陽光発電の装置も組み込むなど、そういったデザインの方向を引き続き考えていきたいと思います。

委員：外観のガラス張りについて、私の自宅が2階までの吹き抜けのガラス張りで掃除が大変です。台風などで塩害がすごくて、業者に頼むと費用がかかるので自分で掃除しました。確かに温かいと思いますが、夏場はクーラーによる電気代が通常の使わない時の倍以上になります。ランニングコストを考えると、清掃代、電気代があまり良くないのではと思います。

委員：庁舎内の風の通り道は、どう考えているのか。外気を入れて暖めたり冷やしたりしますが、非常に開放的になると思うので風の動線を考えると、もっと良くなるのかなと思います。

議長：総合的にエコとか省エネとか、建物としてどういうふうを考えて細かく実現していくのかはテーマです。それによって金額が上下するかもしれませんが、そういったことは市役所の条件だと思うので、いろいろ検討したい。新しいもので良かったな、少し段差があってもこんなに良いんだということもあるかもしれないし、光の取り入れ方とか工夫して進めていきたい。

委員：今回初めての提案で低層階にタイルをいれて、旭は第一次産業のまちなので良い施設を造ってもらいたい。斬新なものにしてほしい。その中で目隠しになる部分にちょっと茶色が入っているのが落ち着く感じで良いかなと思います。近くに東総文化会館の茶色の建物もあって、ちょっとアクセント的な意味で土に交えるという感じも似ているのかなと思います。

議長：地域の土の色をよく使ったり、あるいは加工で赤茶色にしたり、そういうところも地域との関係で考えていきたい。
他に意見が無いようでしたら、次の内観材料について事務局の説明を求める。

事務局：内観材料についての説明。

議 長：退屈しない建物にしようとした時に、玄関や執務室、あるいは2階3階、それぞれ領域ごとに雰囲気が変わると皆さん退屈しないし魅力も出る。木材の使い方もいろいろあって、新たな材料も様々なことができますので、サンプスギだけではなくて、木材をこんな風に使えるのかというような方法を考えていきたい。議場も新しいハイテクな椅子を置くとか、ガラッと変わって最先端の形にしたい。考え方が新しくなるような、その領域ごとの機能によって快適にしていければ良いかなと。お金がかからないように色彩の明るみで綺麗にするとか、表はシンプルに、中は楽しく素晴らしい形にできたらなと思っています。内観材料に関する質疑及び意見を求める。

委 員：木材を多用することは良いことだが、自分の家も12から13年経ちました。木材になっている部分が悲惨になっている。自分はお茶をやっていますが、築100年から200年の茶室をよく見えています。本当の木材だと時間が経つと非常に深みがあって、壁もきれいになっていく。木材を使うというのは、50年後までを考えると、間違いなくメンテナンスしていけないと思う。新しく造る時は一生懸命造るけれども、次に入れ替えるときにはどうしてもお金がかかることになると思うので、木材を使うのであれば厚い物にするとかお願いしたい。あと、学校の体育館の天井を全て撤去しているところです。吊り天井になりますので、耐震の方をしっかりとやってもらいたい。また、電球を取り替えるコストって意外とかかりますので、ランニングコストについても非常に大切だと思います。

委 員：私の会社も天井が非常に広く高く、電球を一個替えるのに高所作業車を手配して取り替えるのでコストがかかります。また、天井ルーバーですが、女性目線という白木を使うと掃除が大変ではないかなと、どうやって掃除するのかなと。私も広い家と会社で掃除に苦労しているので、白木を使った机や椅子はすぐ汚れるなと第一印象で思いました。長く大事に使える、そして清掃しやすいという目線で建てた方が良いのではないかな。それが一番の低コストに繋がるんじゃないかなと思います。

議 長：出来上がった瞬間は良くて、後は古臭くなっていくのではなくて日本の建築のように、時が経つにつれて、難しいところではありますが注意して進めていきたいと思います。

委 員：設計の立場と利用者の立場があると思います。一言でいえば、私たちには見えない部分まで考えてくれることを期待します。市役所の中でも、各課ごとにい

ろいろなお知らせがあつて、木材に画びょうでとめる時代はいつまで続くのか。あるいはテープで貼って、その剥がし後が汚くなる。ある施設に感心したのは、壁が木目調であるが、お知らせをマグネットで留めていました。お知らせの剥がし跡も無く、きれいで冷たさも感じない。市役所は、お知らせの紙を貼っていない課はほとんど無いと思います。学校の壁もセロテープでしか貼れません。そういった部分まで考えた設計を連携して進めてほしい。また、高齢者は高い看板を見ながら歩くのは結構厳しいので、路面の案内サインを設けるなど床に1本線でも引いてあれば下向き目線というのも考えられるのかなと思います。費用がかかるかもしれませんが、そういった親切さもある。上の看板、下の看板をそれぞれ見る人。建物が完成した時に時代遅れにならないようお願いしたい。

議 長：日本の建物は銀行でも何でもすぐに紙を貼ります。そういったことをしなくて済むような計画をしたいと思います。仕上げの仕様まで気を使っていけないと思います。出来上がると物足らなくなるくらいですが、それでも全体的に良いなと感じることもできます。先日、浜松方面のうなぎパイ工場を見に行きました。最先端の新しいデザインの工場は真っ白で、ものすごく素晴らしいです。ものすごくセンスが良い。そういった建物をぜひ見てほしいです。次の概算事業費について事務局の説明を求める。

事 務 局：概算事業費についての説明。

議 長：概算事業費に関する質疑及び意見を求める。
意見が無いようでしたら、
議題（２）について事務局の説明を求める。

事 務 局：新庁舎建設基本設計（素案）についての説明。

議 長：新庁舎建設基本設計（素案）についての質疑及び意見求める。

委 員：2階にフレンドあさひという部屋がありますが、利用する方を考えてエレベーターから近い位置の方が良いというのが一つあります。また、4階のカウンセリングルームですが、今の計画だとカウンターの前を通らないと行けないのと、フレンドあさひとカウンセリングルームは結びつきがあつてフレンドあさひを利用する子供をカウンセリングルームに連れて行くこともあります。案として、2階東側の監査委員事務局とフレンドあさひを入れ替えれば、休日の出入り口

から上がって、すぐに入っていけると思います。また、4階のカウンセリングルームは生涯学習課のあたりが良いのでは、ぜひ工夫してほしい。5階の展望室についてですが、誰も見ない空間になってしまうと犯罪を誘発する空間になってしまうのではないかと。開放するのは良いが防犯カメラを設置するとか、あるいは休日に開放するとなると、3階や4階に行けてしまうので防犯上の対策を考えた方が良いでしょう。

事務局：フレンドあさひと監査委員事務局の位置の変更は可能ですので検討させていただきたいと思います。また、5階の展望フロアは犯罪などという話もありましたので、しっかりと考えていきたいと思っています。

委員：展望室は、軽食ができるようにと書いてあるがカフェ等のお店を入れないのであれば、こういう軽食の場っていうのは必要ないと思います。いろんな意味で弊害があると思います。防犯関係でいろいろ問題が出てくるので、これは検討する必要があると思います。

事務局：中央病院などの多くの方が利用する施設であれば営業になると思いますが、5階にカフェのお店を設置したところで、営業としては非常に厳しいのかなというのとは重々承知しているところであります。十分検討させていただきます。

議長：当初、一番上は、それぞれ合併した故郷を見渡せるという、ぐるっと回って東西南北が見えて故郷に愛着がわくというものを考えていました。

委員：展望室はいいけど、軽食できるようにしてしまうとゴミ処理が大変になる。

議長：それは考えましょう。それと2階の屋上と4階の屋上は非常にもったいないような感じがします。目の前の公園を見下ろせるように、ぐるっと回れるようにしてほしい。

委員：セキュリティですが、防犯カメラの設置の記載が無いのが少し疑問に思いました。これだけの施設には防犯カメラの設置は当然だと思います。執務室の中で防犯カメラの監視ができる場所が必要ではないか。そういった意味で、入口に入ってすぐに会計のお金を扱うところがあるのはどうなのか。動線が非常に無駄になってしまっていて、入って1階の左側に総合案内があって、2階3階に行くとなった時に、左側に階段はあるが、エレベーターまでが遠い。案内板と逆方向に行かないといけないので、案内板からエレベーターは近い方が良い。

のではないかと。また、案内看板は字を大きくして一目で分かるような方が良いのではないかと思います。

議長：例えば、金融機関の窓口は入って右側の奥が良いのでは。あと、総合案内の奥にシースルーのエレベーターで楽しみを加えるなど、今の案は基本としてすべて網羅しているので、ここから考えていきたいと思います。

事務局：動線計画については風除室の位置など十分に検討させていただきます。金融の窓口と会計課を近接で計画しており、金融の部分だけ離すのはいかなものかと考えておりますが、検討させていただきます。また、サイン計画に関しましては、まだまだイメージであり、これから内容を具体的に詰めていきたいと思っています。それから、防犯カメラについては当然必要であると考えております。

委員：会計課と税務課が正面ではなく、市民サービスであって、市民生活課の方が良いのではないかと思います。

事務局：以前、窓口執務環境現況調査を行い来庁者数などを調査しています。その中で市民生活課は来庁者が一番多いところであります。2番目に多いのが税務課で、その税務課から会計課に流れる方が一番多いです。市民生活課が一番多く、二番目に税務課、会計課という配置計画ですが検討いたします。

議長：これでは入口が楽しくありません。入口をもっと南側に下げて、お金の話は奥でやってもらった方が良い。もしくは南側のカウンターの方に持っていくなどの検討をしていきましょう。

委員：2階の子育て支援センターハニカムがエレベーターから距離がある。ベビーカーを押した方になるべく負担がかからないように検討をお願いします。

議長：最初の段階ですから、これから楽しく面白くなるように検討したい。

委員：防災関係ですが、自家発電はどこにありますか。

事務局：5階の機械室の中の右側の大きい方です。

委員：キュービクル関係と電気関係もですか。

事務局：同じです。

委員：振動や騒音を含め、配管の立ち上がりだとかそういう問題も出てくる。あと、水道管なども免震で揺れるのでエキスパンションを徹底的にお願いしたい。

委員：ハニカムについての利用の仕方についてですが、休日（土曜日）にもハニカムを利用するのですか。

事務局：利用します。

委員：そうしますと、車いすやベビーカーなどで利用する人もいると思うので、ぜひエレベーターが利用できるようにしていただきたい。

委員：2階のセキュリティ計画では、ハニカムや多目的スペースに行くのにエレベーターが使えない場所になっていませんか。

事務局：エレベーターが使えるように想定しています。3階と4階はエレベーターが着床できないようにします。

委員：長寿命庁舎とありますが、旧庁舎は50年以上が経過しておりますが、新庁舎は70年、80年など、どのくらいの想定をしているのでしょうか。

事務局：二次部材とか他のものは別として、メインフレームの躯体自体は100年で想定しています。

議長：基本的なことですが、建物の重心が北側（メインプロムナード側）に寄っているような感じがします。全体を免震にするのであれば、発想を変えても良いのではないかなと思います。あと、展望室の屋根ですが、旭のシンボルらしい形で、九十九里の波やツバキなど何か不思議なものがあっても良いと思います。他に意見はありませんか。その他、事務局から何かありますか。

事務局：今後の予定として、基本設計（素案）につきましては、議会へ報告し意見を伺います。その後、12月中旬に予定しておりますが、広く市民から意見をいただくためパブリックコメントを実施します。本日の会議でいただいた意見と、議会の意見や市民の意見、また職員の意見などを含めて基本設計（案）を作成したいと考えています。次回の市民会議については来年の1月下旬を予定して

おりますので、よろしくお願いします。

議 長：本日の資料をパブリックコメントで公表するのか。本日の意見を反映し修正するのか。

事 務 局：本日のご意見については、内容を整理し、できる限り修正する方向で進めます。
そして、修正された基本設計（素案）を改めて市民会議の皆さんに確認していただきたいと考えております。

議 長：修正には時間がかかるので、本日の意見をまとめたものを添えたらどうか。

委 員：議長の意見のとおり、本日の意見をまとめたものを付け加えてもらいたい。

事 務 局：それでは、基本設計（素案）についてはそのまま、それに本日の市民会議での意見を別紙にまとめた形で添えまして、議会への説明やパブリックコメントを実施していきたいと思います。

議 長：よろしくお願いします。本日の会議を終了する。

【会議 閉会】